

上新第 667 号
平成 26 年 1 月 10 日

浦川原区地域協議会
会長 藤田 宏 様

上越市長 村山 秀 幸
(企画政策部 新幹線・交通政策課)



浦川原区地域協議会からの意見書について (回答)

平成 25 年 12 月 20 日付けで提出のありました意見書について、下記のとおり回答します。

記

1. ほくほく線車両の JR 黒井駅の停車について

〈意見〉

大手工場や県営、市営工業団地への通勤に利用されるよう、「JR 黒井駅」に停車すること。

〈回答〉

北陸新幹線開業に伴い、ほくほく線の経営状況は大きく変わることが見込まれています。そのことから、現在、北越急行(株)において、北陸新幹線開業後の運行体制や運賃などについて検討を行っているところであり、来年度前半までに決定する意向と伺っています。

市としても、ほくほく線は沿線地域の日常生活の足であり、北陸新幹線の二次交通の要ともなることから、利便性の維持・向上や存続が重要であると認識しているところです。

黒井駅への停車につきましては、これまでも北越急行(株)や JR 東日本への要望の一つとして活動を行ってきたところですが、北越急行(株)からは、自社の駅でない黒井駅については停車の決定ができないことから、要望があることを JR 東日本に伝えていると伺っており、JR 東日本からは、現在のところ停車の予定はないが、今後利用客数や必要性を見極め、北越急行(株)と協議を行っていくとの回答をいただい

ているところです。

現状として、うらがわら駅・虫川大杉駅～黒井駅間の利用は1日数名程度と少なく、今後もほくほく線内の駅～黒井駅間における急激な乗車人員の増加が見込まれる状況にはなく、一方では、停車することで北越急行の速達性の低下を招くともお聞きしていることから、実現にはまだまだ高いハードルはありますが、今後も、北越急行(株)やJR東日本に対し働きかけていきたいと考えています。

2. ほくほく線車両の上越妙高駅への乗り入れについて

〈意見〉

新幹線駅に併設される「(えちごトキめき鉄道の)上越妙高駅」まで乗り入れることにより、高齢者の通院はもとより通勤、通学、旅行等で利用する人々のアクセスの向上をはかること。

〈回答〉

ほくほく線車両の上越妙高駅乗り入れについては、えちごトキめき鉄道(株)が平成25年4月に策定した「経営基本計画」において、北越急行(株)と協議するとしており、現在、その協議が行われているところと伺っています。

その中で、信越本線は単線であるため、①利用者の多い朝、夕では運行ダイヤが混んでいることから、ほくほく線の乗り入れは物理的に困難であること、②ほくほく線から信越本線に乗り継ぐ利用者が現状において少ないこと、③えちごトキめき鉄道の車両は、安全仕様(ATIS装置)の面で現状ではほくほく線区内に乗り入れができないこと、④犀潟～直江津間はJR線であることから、乗り入れを行うためには、JRを含めた3社間での乗務員交替が必要となるが、国内において同様の事例がないため、国土交通省から事業認可されるにはハードルが高いことなど、乗り入れを実現するには困難な課題があると伺っています。

なお、ほくほく線の区間は犀潟駅～六日町駅間であることから、ほくほく線車両が北陸新幹線開業後も引き続き直江津駅及び越後湯沢駅までJR線への乗り入れが可能であるか懸念があります。ほくほく線の維持・存続及び利便性の向上には、直江津駅及び越後湯沢駅までの乗り入れ、両駅において他の路線とのスムーズな接続を確保することが不可欠です。そのため、まずはこれらの確保を関係者に求めているところであり、引き続き、働きかけを行っていきたいと考えております。